

法医学解剖例におけるスタットストリップを用いた

3-ヒドロキシ酪酸測定の有用性評価

京都府立医科大学法医学教室では、当教室で施行された法医学解剖のご遺体を対象に血液中 3-ヒドロキシ酪酸濃度に関する研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

・ 研究の目的

法医学解剖における死因究明では、糖尿病、アルコール摂取、向精神薬の副作用などに伴うケトアシドーシスが重要な鑑別疾患となります。ケトアシドーシスの評価には、ケトン体の一種である 3-ヒドロキシ酪酸（3-HB）の測定が有用とされています。

現在、3-HB は主として血清を用いた酵素法で測定されています。しかし、法医学解剖例では死後変化や腐敗などにより溶血が生じ、血清分離が困難となる場合があります。そのため、全血のまま迅速に測定可能な手法の有用性を検討する必要があります。

本研究では、POC 検査機器「スタットストリップ」を用いて、法医学解剖例の全血中 3-HB 濃度を測定し、従来の酵素法による測定値との比較を行います。また、凍結融解や溶血が測定値に及ぼす影響についても検討します。

本研究により、従来法では測定困難であった溶血検体に対する 3-HB 測定の実用性を明らかにし、法医学解剖におけるケトアシドーシスの見逃し防止および死因診断精度の向上に役立てることを目的としています。

・ 対象となる方について

2014 年 12 月 21 日から 2029 年 12 月 31 日までに、京都府立医科大学法医学教室において法医学解剖が施行され、鑑定目的で血清 3-HB 測定が実施された症例を対象とします。

・ 研究期間： 2026 年 7 月 23 日から 2030 年 3 月 31 日

・ 方法

本研究は、法医学解剖時に採取・保存された血液試料を用いて行います。

過去に鑑定目的で 3-ヒドロキシ酪酸（3-HB）が測定された症例について、保存されている全血試料を用いて、POC 検査機器「スタットストリップ」により 3-HB 濃度を測定し、従

来の酵素法による測定値と比較します。

また、研究期間中の症例については、凍結保存前後の全血を用いて測定を行い、溶血や凍結融解が測定値に与える影響について検討します。

得られた測定値を統計学的に解析し、スタットストリップによる測定の有用性および妥当性を評価します。

・ 研究に用いる試料・情報について

情報：3-HB の検査結果等

試料：法医鑑定業務で採取・保存された残余血液試料（0.1 mL 以下）

・ 個人情報の取り扱いについて

研究に用いる情報は上記のものだけを抽出し、本研究用の番号を新たにランダムに付与して紐づけして解析するため、個人が特定されることはありません。また、研究成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、御遺体が特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は厳重な管理を行い、御遺体の情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・ 研究資金及び利益相反について

利益相反とは、寄附金の提供を受けた特定の企業に有利なようにデータを操作する、都合の悪いデータを無視するといった、企業等との経済的な関係によって、研究の公正かつ適正な実施が損なわれるまたは損なわれているのではないかと第三者から懸念される状態をいいます。本研究に関する利益相反については、京都府公立大学法人の利益相反に関する規程、京都府立医科大学の臨床研究に係る利益相反に関する規程等に当たって管理されています。

本研究は大学運営交付金（教室費）により実施します。本研究の実施にあたり、開示すべき利益相反はありません。

・ 研究組織

研究責任者 京都府立医科大学 法医学教室 池谷 博

研究者 京都府立医科大学 法医学教室 新谷 香

研究者 京都府立医科大学 法医学教室 宮崎 ゆか

お問合せ先

御遺族の方のご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲

覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて御遺族の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2030 年 03 月 31 日までに下記の連絡先までお申し出ください。尚、上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

京都府立医科大学法医学教室

職・氏名：准教授・新谷 香

電話：075-251-5343（受付時間：平日の午前 9 時から午後 5 時まで）